



大切なのは **ひと、自然、平和**
まつぎ

松崎 ゆり子

大野城市議会議員 議会だより

2018年 秋冬 Vol. 11



9月議会

松崎ゆり子の一般質問

中学生にも栄養豊かな自校方式の完全給食を!

配送がなく美味しい! 調理員さんとの交流は、自校式のみ!

提言 心身の成長に、食が重要です!

食育基本法は、「子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力をつけていくためには、何よりも食が重要である」としています。

9月議会では、心身ともに大きく成長する中学生期、中学校の完全給食・自校式を求めて、再考を迫りました。

しかし市は、「今後も選択制を継続」と、今回も厚い壁でした。

栄養格差をカバーするにはまず給食!

2005年にランチサービスの導入から13年、働く女性やひとり親家庭も増え多忙です。本市小中学生の約15%が朝食を、8割が朝食に野菜を食べていません。食や子どもの貧困が進んでいます。

完全給食は、栄養豊かな食事をどの子にも届けられます。保護者の願いです。今後も完全給食・自校式を求め頑張ります!



(市ホームページより)

学校給食調理員料理コンクール 2018年度優勝校 下大利小学校

メニュー(松風焼、切り干し大根の昆布茶ナッツ炒め、サバ缶の五目汁、ジャコとキャベツのふりかけ、野菜ジュースとキウイのゼリー の5品目とご飯と牛乳)

本市の小学校給食はおいしいと人気です。自校式で、栄養士・調理員さん達の愛情たっぷりだから

自校式は高くない! 設備費はセンター15億円、自校式12億円、国の補助半額

ゆり子 本市中学校昼食選択制の現状は

市 弁当持参7割、ランチ給食2割、パン給食1割。

ゆり子 選択制がよいと考える理由は

市 生徒、教職員、保護者対象のアンケートで、8割から9割の支持がある。

ゆり子 子どもたちの成長を支援するには学校給食が有効。県内で完全給食を実施していない自治体は、

市 大野城市、太宰府市、須恵町、久山町のみ。

ゆり子 完全給食のメリットは

市 栄養バランスが考えられた食事、保護者の負担が少ない、統一的な食育指導ができること。

ゆり子 本市全小学校、公立保育所では、自校方式の完全給食である。自校方式の良さは

市 配送の手間がかからないこと、生徒と調理員のコミュニケーションがとれること、調理から喫食までの時間が短いこと。

ゆり子 予算、補助金の見込みは

市 設備費が自校式では約12億円、センター式では約15億円、調理員民間委託費が自校式では年間で6,710万円。センター式は約4,720万円。国からの補助金は、設備費で約2分の1が補助の対象。

ゆり子 完全給食・自校方式への移行は

市 選択方式を今後も継続の考え

データ 調理方式は、**自校式、センター式**、小学校で作る**親子式**、弁当配達**デリバリー式**があります。県内では、センター式34、自校26自治体。各方式の利点難点を比べ、自校式が最善です。宗像市では順次自校式へ移行しました。設備費も国の補助を使うと1校1.2億円。調理委託費も5校で年6710万円。因みにふるさと館運営費は年間約2億円です。